

第7回「レンゲ畑について」

「花畑は全てレンゲ畑にしたら、赤いじゅうたんが敷いてある感じになって、その中で自由に子どもたちを遊ばせてやりたい」これは、松崎マイドリーム2016発表会での高校生の発表です。次に、県農林技術研究所が記したレンゲの知られざる働きを紹介します。コモリグモを保全することも、レンゲの機能の1つです。コモリグモは、水田やあぜを歩き回って害虫を捕まえる天敵です。レンゲに覆われた田んぼは、コモリグモが冬を越すのに適した環境となっており、レンゲを栽培することによって多くのコモリグモが維持されることが明らかとなりました。レンゲ畑の風景に秘められた機能は、それだけではありません。最近では、ミツバチの減少が問題となっていますが、レンゲはミツバチの蜜源としても優れています。レンゲは、花粉を運ぶミツバチ以外の虫に蜜を奪われないよう、下の花びらを閉じています。そして、ミツバチだけがレンゲの花びらを押し上げて、レンゲの蜜を吸うことができるのです。さらに、レンゲの活用は、田植え前の水田だけにとどまりません。咲き終わったレンゲは、地面で分解するときには有機酸を出して、雑草を抑える効果もあります。そのため、遊休水田の雑草対策としてもレンゲは利用価値があるのです。レンゲ畑は、単に私たちに春の風景を楽しませてくれるだけではなく、人知れずさまざまな働きで農業をサポートしてくれて

レンゲ畑を見て、少年・少女期に戻り、母を思い、春を思う、そして、あの松崎に帰ってみようかと感じていただけたらと思っております。